

9 2 3 4 7 10 11 12 13

の畑に苗を植え、種子を蒔きケールを育てました。葉をとるので葉がなくなってしまうかとは時には不安もありましたが、強い植物で幸い何十年もつつがなく育ちました。

藤松先生は長崎県五島列島の方で、いつも「ぜひ一度小値賀に遊びに来てください」とおっしゃっておられました。その後先生は校長を辞して、郷里にもどられました。先生と夫との交信は絶えることはありませんでした。

昭和五十九年十一月三日、夫は熊本、長崎方面のロータリークラブに卓話にまいり、その折に私も小値賀に伺うことになりました。五島行き定期船は、佐世保から出航します。最北の宇久島に立ち寄って小値賀に着いたのは夕方近くで、藤松先生ご夫妻のお出迎えを受けてお宅に伺いました。藤松家はこの島の旧家で立派なお屋敷でした。松や梅、すすき、柿の木の間にケール畑が広がり、私の背丈よりも高くのびた太いケールの茎には大きな葉が輝いて、この島の自然の豊かさをたたえているように思われました。お庭の先端の石垣の裾を波が洗っております。

先生は「青汁をつくりましょう」とおっしゃってケールの葉をたくさんもいで、お台所におつれくださってミキサーでたっぷり青汁を作ってくださいました。朝食後にいただいた青汁は、私の青汁よりはずっと濃い味わいで自然がたっぷり含まれているように思われました。

夫はこの日、福岡の直方のロータリークラブに卓話の予定があり、朝の船で小値賀をたちました。私